CONTAX



G1

取扱説明書

この取扱説明書は、Recycled Paper を使用しています。

このたびは、コンタックス G1 をお買い上げいただき
ありがとうございます。
このカメラは、『作品を作るカメラ』というCONTAXの思想を
受け継ぎながら、一眼レフとは別の使いやすさを目指した、
新しいコンセプトに基づく35mmフォーカルプレンシャッター式
AFレンジファインダーカメラです。
また、TTL実絞り測光による絞り優先AE、
高性能ワイドレンズが装着可能など、コンパクトなボディに
高機能性を納めています。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、
正しい取扱いで末永くご愛用ください。

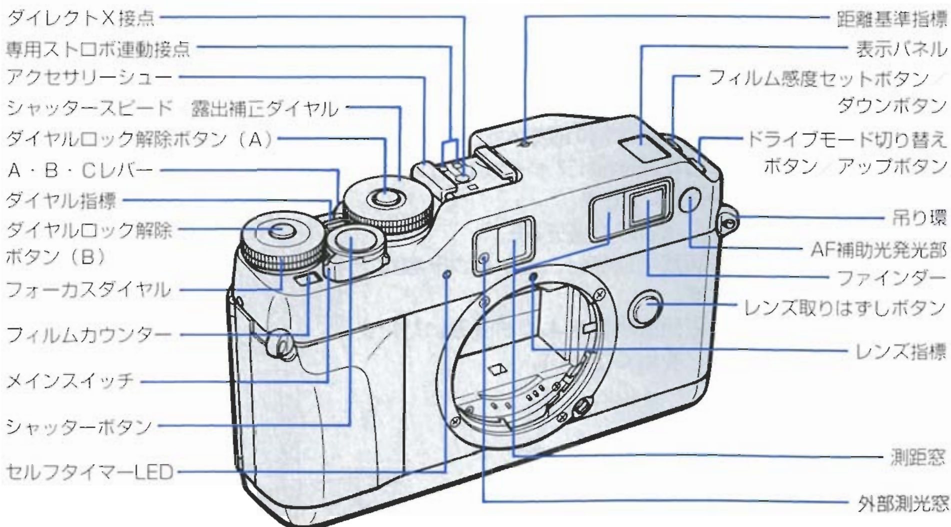
この取扱説明書の説明内容は、コンタックスGマウントのプラナーT＊45mm F2付で行っていますが、他のコンタックスGマウントカールツァイス交換レンズを装着した場合も特に記載がない限り使用方法は同じです。

● ホロゴン16mm F8をご使用のときは、必ず「ホロゴン16mm F8について」（P59）を併わせてお読みください。



この取扱説明書は、図のようにして各部の名称と照らし合わせて読むことができます。

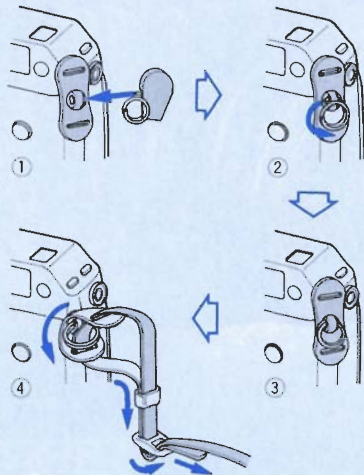
各部の名称



ダイレクトX接点
専用ストロボ連動接点
アクセサリーシュー
シャッタースピード／露出補正ダイヤル
ダイヤルロック解除ボタン（A）
A・B・Cレバー
ダイヤル指標
ダイヤルロック解除ボタン（B）
フォーカスダイヤル
フィルムカウンター
メインスイッチ
シャッターボタン
セルフタイマーLED
距離基準指標
表示パネル
フィルム感度セットボタン／ダウンボタン
ドライブモード切り替えボタン／アップボタン
吊り環
AF補助光発光部
ファインダー
レンズ取りはずしボタン
レンズ指標
測距窓
外部測光窓

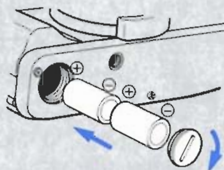
ストラップの取付けかた

図にならって取付けてください。

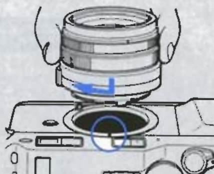


目次

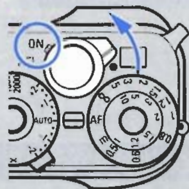
撮影の早わかり



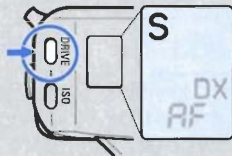
1 電池を入れます。(P8)



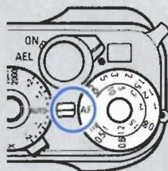
2 レンズを取付けます。(P11)



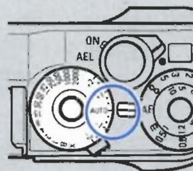
3 メインスイッチを“ON”にします。(P13)



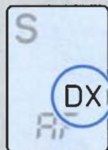
6 ドライブモードを“S”または“C”にします。(P24)



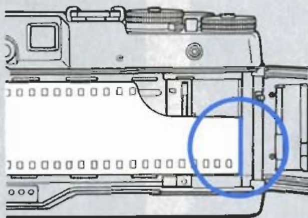
7 フォーカスダイヤルを“AF”に合わせます。(P26)



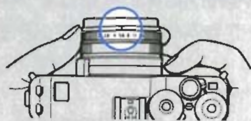
8 シャッタースピード／露出補正ダイヤルを“AUTO”にセットします。(P36)



4 フィルム感度を"DX"にセットします。(P21)



5 DXフィルムを入れ、先端をオレンジ色の"—"マークの位置まで引出し、そのままスプールの上にのせて、裏ぶたを閉じます。(P18)



9 絞りをセットします。(P36)

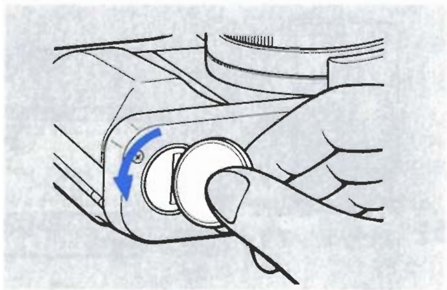




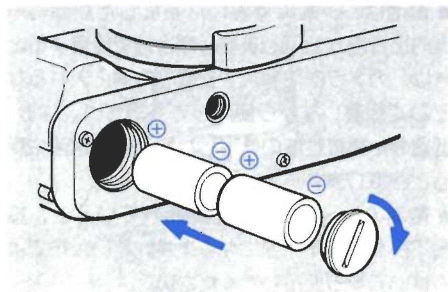
10 シャッターボタンを押して撮影します。(P27)

撮影前の
基本操作

電池の入れかた



1 硬貨などを利用し、バッテリー室カバーを矢印方向に回して開けます。

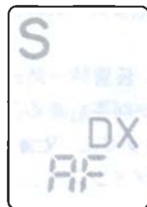


2 メインスイッチをOFFにしてから3Vリチウム電池(CR2) 2個をバッテリー室内の表示に従って正しい向きで入れ、カバーを元通りに閉めます。

● **向きを間違えると、カメラが作動しないばかりでなく、故障の原因となることがあります。**

〈バッテリーチェック〉

電池を入れた後、カメラを一度作動させ、表示パネルに"▭"(バッテリー警告マーク)が表示されなければ、電池の電圧は正常です。





電池を交換してください。

〈電池の交換時期〉

表示パネルに"▭"マークが点灯したら、電池交換の時期です。メインスイッチをOFFにしてからカメラのバッテリー室カバーを開けて、新しい電池と交換してください。

● "▱" マークが点灯してからも撮影はできますが、すみやかに電池交換してください。電池容量が使用限界を超えると、表示パネルの"▱" マークが点滅または消灯し、カメラは作動しなくなります。このとき最後の写真は正常に写らないことがあります。

● 電池によってはその性質上、装着時一時的に電圧が低下し、"▱" マークが点灯することがあります。新品電池装着後すぐに "▱" マークが表示された場合、一度メインスイッチをOFFにし再度ONにしてください。この操作を行って "▱" マークが消えたらそのままお使いいただけます。

〈電池取扱い上の注意〉

● 電池の交換は、種類の違うものや古いものを混ぜたりせず、2個とも同じメーカーの同一種類の新品電池と交換してください。

● 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

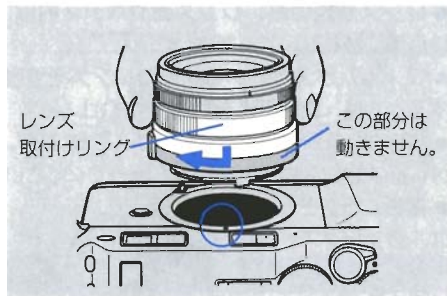
● 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

● 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。

● 使用済みの電池を火の中に捨てたり、充電、ショート、分解、加熱するのは危険ですから絶対にしないでください。

● 3Vリチウム電池（CR2）は充電できません。

● 電池は幼児の手の届かないところに置いてください。

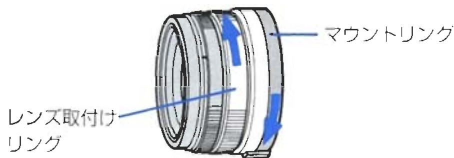


〈レンズの取付け〉

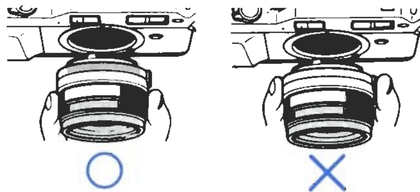
まずカメラのボディキャップとレンズの後キャップをそれぞれ回してはずします。次に、レンズの取付けリングを持ち、レンズ側の赤点をカメラ側のレンズ指標に合わせてはめ込み、時計方向に"カチッ"と音がして止まるまで回して取付けます。

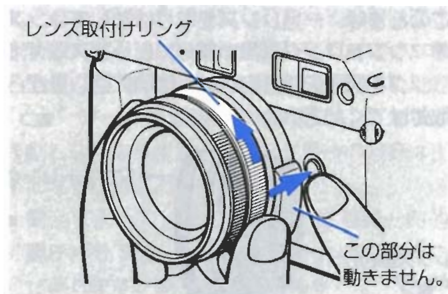
● レンズが入らない場合、あるいは指標をずらしてレンズを入れた場合はロックができません。

このときは、一旦レンズを取りはずしてレンズのマウントリング（黒い部分）とレンズ取付けリングを図の矢印方向へいっぱいに回してから取付けてください。



● レンズの取付け、取りはずしは必ずレンズ取付けリングを持って行ってください。





〈レンズの取りはずし〉

レンズ取付けリングを持ち、カメラのレンズ取りはずしボタン中央を押しながらレンズを反時計方向に止まるまで回し、前方に引出してはずします。

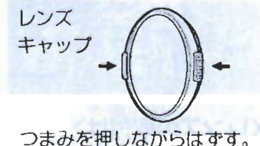
カメラからはずしたレンズにはレンズキャップと後キャップ、またカメラにはボディキャップをかぶせて保護することを忘れないでください。

● レンズ着脱の際、レンズ面やボディ内部、接点等に触れないでください。

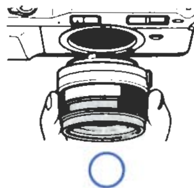
● フィルムが入っている状態でレンズを着脱するときは、直射日光を避けてください。

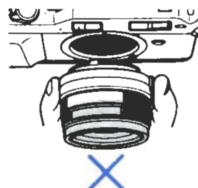
● ホロゴン16mm F8の取付け、取りはずしは、必ずレンズガードを持って行ってください。

● 撮影するときは、必ずレンズキャップを取りはずしてください。

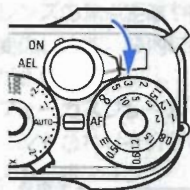


つまみを押しながらはずす。

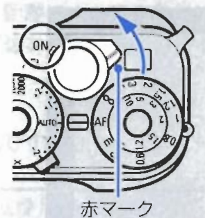




メインスイッチ



OFF状態



ON状態

電源の"OFF"、"ON"および"AEL"(AEロック)の切り替えを行います。

● 誤作動を防ぐため、メインスイッチはクリックの位置にとめてご使用ください。

OFF：赤マークが見えないとき

カメラの電源が切れ、OFFの状態になっています。
カメラを使わないときは、不用意にシャッターが切れないようにメインスイッチをOFFにしてください。

"ON" マーク

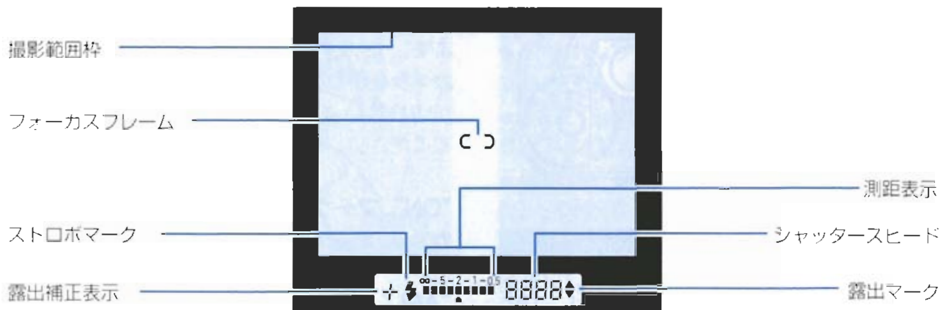
カメラの電源が入ります。

"AEL" マーク

逆光での撮影や、動く被写体を一定の露出で連続撮影するなど、露出を固定（AEロック）したいときに使います。
詳しくはP42をご覧ください。

ファインダー内表示

（この図は説明のために全情報を表示したもので、実際の表示とは異なります。）



ファインダー内表示は、次の操作をしたときに表示され、16秒間表示したあと自動的に消える省電設計になっています。

①メインスイッチをONにしたとき。

②メインスイッチONの状態で、
　シャッターボタン半押し、またはフォーカスダイヤルを操作したとき。

・ドライブモード切り替えボタン、フィルム感度セットボタンを操作したときも表示されます。

また表示中に、ダイヤル、ボタン等を操作したときは、表示は更に16秒間延長されます。

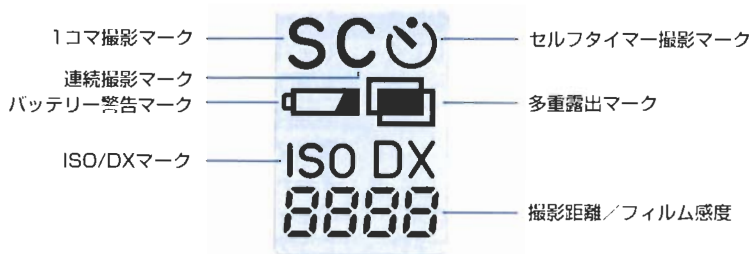
撮影範囲枠：
レンズの焦点距離や撮影距離によって自動的に変化します。枠内に被写体を入れて撮影してください。
フォーカスフレーム：
ピント合わせを行う範囲です。
ストロボマーク：
TLAフラッシュシステム使用時、充電が完了すると"⚡"マークが点灯します。またTTL調光が的確に行われたときは撮影後に2秒間点滅します。
露出補正表示：
シャッタースピード／露出補正ダイヤルや、A・B・C撮影で露出補正をすると"＋"または"－"のマークが点灯します。
測距表示：
ピントの状態を表示します。詳しくは「ピントの合わせかた」（P26から）をご覧ください。

シャッタースピード：
シャッタースピードは1/2000秒から16秒まで1/2ステップで表示され、"2000"は1/2000秒、"125"は1/125秒、"16""は16秒を表します。
露出マーク：
オート露出モードでは、オート露出連動範囲外のオーバー"▲"、アンダー"▼"の表示、マニュアルモードでは、適正露出"▲▼"、オーバー"▲"、アンダー"▼"を表示します。

ファインダー右下隅に、フィルターやフード（28mmレンズ装着時はレンズ鏡胴）がわずかに見えることがありますが、実写画面には現れません。

表示パネル／フィルムカウンター

〈表示パネル〉（この図は説明のために全情報を表示したもので、実際の表示とは異なります。）



バッテリー警告マーク：

電池の交換時期を表示します。

ISO/DXマーク：

フィルム感度表示にしたとき、あるいはフィルム感度をセットするモードのときに、表示されます。

・DXコードによる自動セット状態のときは、常に“DX”が表示されます。

撮影距離／フィルム感度：

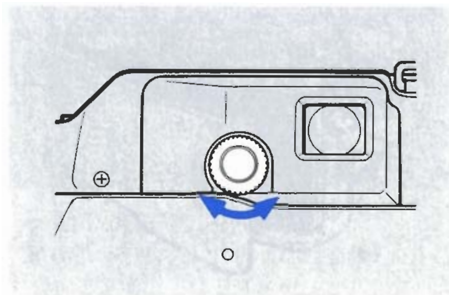
シャッターボタンを半押しすると、撮影距離を表示します。“フィルム感度セットボタン”を押すとフィルム感度表示になります。

また、カスタム機能のセット状態も表示します。

〈フィルムカウンター〉

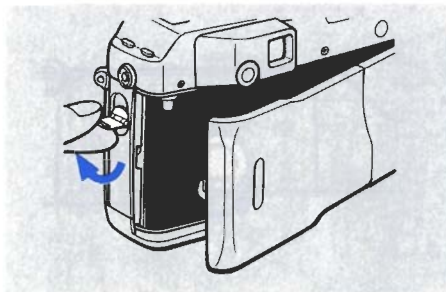


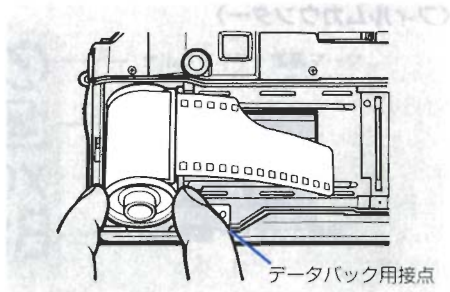
撮影枚数を表示します。
また、次のような表示もします。
・A・B・C撮影時の撮影順序
・撮影フィルム終了時の表示



このカメラには視度調整機構が内蔵されています。視度調整つまみを回して、ファインダー内中央のフォーカスフレームがはっきり見えるように調整してください。
調整範囲は+0.3〜−2D(ディオプター)です。

フィルムの入れかた





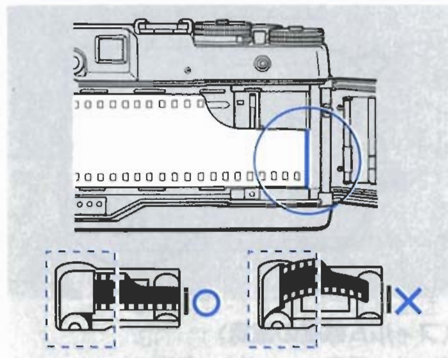
1 裏ぶた開放ノブを起こし矢印方向に回して、裏ぶたを開けます。開けた後、裏ぶた開放ノブは元の位置に収納しておいてください。

● フィルムを入れるときはカメラの内側と入っている「保護シート」を必ず取りはずしてください。

2 図のように、フィルムパトローネ先端を斜めにして入れます。

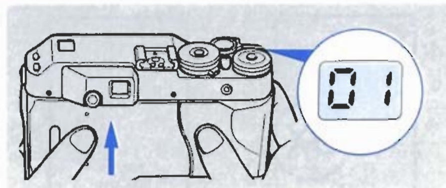
シャッター幕について

シャッター幕は精密部品ですので絶対に指で触れたりフィルムの先端でついたりしないでください。特にフィルムの先端がシャッター幕の上にある状態では、絶対にシャッターを切らないでください。



3 フィルムの先端をオレンジ色の"━"マークの位置まで引出し、そのままスプールの上にのせます。
このとき図のようにフィルムが浮き上がらないようにしてください。

● フィルムの先が長く出ている場合は、巻戻して長さを調節してください。



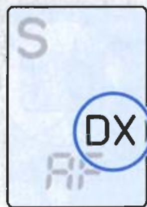
4 裏ぶたを確実に閉めます。
裏ぶたを閉めるとフィルムが自動的に1コマ目まで空送りされ、フィルムカウンターは"01"になります。

● フィルムカウンターが"00"のままで点滅している場合は、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開け、もう一度入れなおしてください。

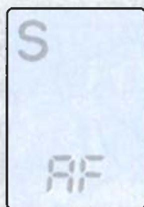
● DX接点やデータバック用接点は、むやみに触れたり、汚したりしないように注意してください。

● フィルムの出し入れは、直射日光を避けてください。

フィルム感度の確認およびセットのしかた

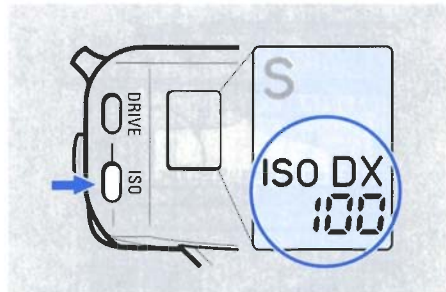


"DX" が表示されているとき



表示されていないとき

表示パネルに "DX" が表示されているときはDXコードによる自動セットになります。DXコード付きのフィルムをご使用になる場合はそのままお使いください。**"DX" が表示されていないときは、必ずフィルム感度を手動でセットしてください**

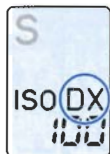


〈フィルム感度の確認〉

フィルム感度セットボタンを押すと、セットされているフィルム感度が表示パネルに点灯表示されます。

〈フィルム感度のセットのしかた〉

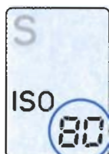
フィルム感度のセットは、DXコード利用による自動セットモードと任意の感度をセットする手動セットモードの2通りの方法があります。



■自動セットモード

"DX" にセットすると、DXコード付きのフィルムを使うとき、カメラがフィルム感度を自動セットします。**DXコード付きフィルムはISO 25～5000まで使用でき**、"DX" のマークと感度は、フィルムの外箱に表示されています。

● DXコードのないフィルムは、ISO100に自動セットされます。

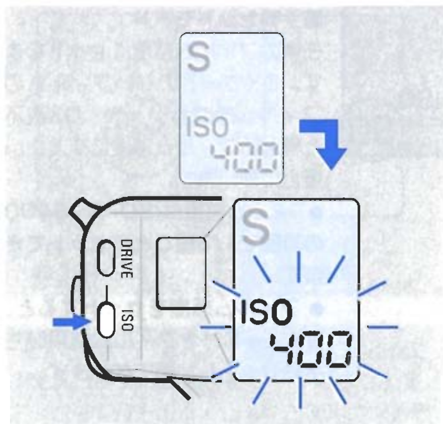


■手動セットモード

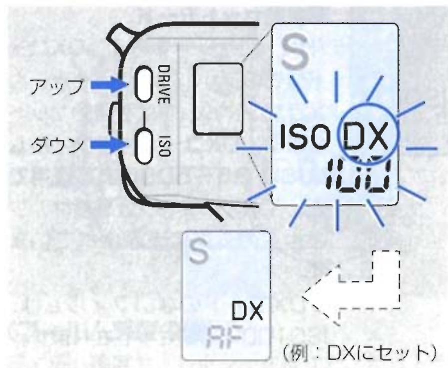
任意のフィルム感度にセットします。DXコードのないフィルムのフィルム感度セットや、DX表示と異なるフィルム感度に変えたい場合に使います。

●フィルム感度は**ISO 6～6400の範囲で1/3段ごとにセットできます。**

● フィルム感度をセットすると、DXコード付きフィルム使用時も手動セットした値になります。



1 メインスイッチを"ON"にして、フィルム感度セットボタンを、表示パネルの「フィルム感度」表示が点滅するまで（約1.2秒以上）押し続けます。点滅に変わったら、一旦ボタンから指を離してください。



（例：DXにセット）

2 "アップボタン"（ドライブモード切り替えボタン）または"ダウンボタン"（フィルム感度セットボタン）を押して、フィルム感度を"DX"または合わせたい感度値にします。

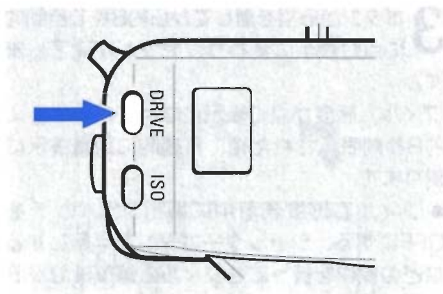


・"アップボタン"または"ダウンボタン"を押すと、押すごとに1/3段階ずつ感度が変化します。
・ボタンを押し続けるとフィルム感度が連続して変化します。

3 ボタンから指を離してから約8秒で自動的に点灯表示に変わり、セットが完了します。
フィルム感度が点灯表示になってからさらに約8秒間表示された後、自動的に距離表示に戻ります。

● フィルム感度表示中にメインスイッチをOFFにする、シャッターボタンを半押しするなどの操作を行ってもフィルム感度はセットされます。
● セットしたモードは、次にセットし直すまで記憶されています。

ドライブモードの切り替え



ドライブモード切り替えボタンを押すごとに、次のようにドライブモードが切り替わります。撮影目的に合わせて希望するモードの表示を表示パネルに出して撮影してください。

S…1コマ撮影：カメラのシャッターボタンを押すごとに1コマ分撮影され、次の巻上げが行われて停止します。

C…連続撮影：カメラのシャッターボタンを押している間、最高約2コマ／秒の連続撮影ができます。（撮影コマ速度は、シャッタースピードやフィルム感度、使用する電池の状態などにより変化します。）

●オートフォーカス“AF”にすると撮影コマ速度が遅くなることがあります。

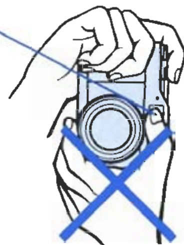
⏱…セルフタイマー撮影：10秒のセルフタイマー撮影になります。詳しくはP53をご覧ください。

…多重露出撮影：多重露出撮影をするときにセットします。詳しくはP52をご覧ください。

カメラの構えかた

ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントが悪い写真の多くはカメラぶれが原因です。

レンズ、測距窓などに指がかからないよう注意する。



手にあまり力を入れず、
静かにシャッターボタンを押す。
写す瞬間、呼吸を止める。





脇をしめてカメラを安定させる。

カメラは横位置の他、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分にあった姿勢を研究してください。建物や木立などを利用して体やカメラを支えることも効果的な方法です。

ピントの合わせかた

ピント合わせには、自動でピント合わせを行う"オートフォーカス"と、手動で行う"マニュアルフォーカス"の2通りの方法があります。ダイヤルロック解除ボタン（B）を押しながらフォーカスダイヤルを"AF"（オートフォーカス）または"∞～0.5m"（マニュアルフォーカス）に切り替えます。

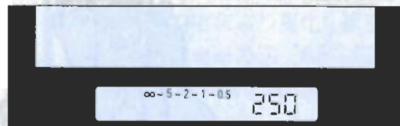
オートフォーカス（AF）のとき

1 フォーカスダイヤルを"AF"にセットします。

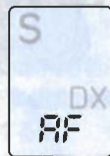
ファインダー内測距表示と表示パネルが図のようになります。

● ゾナーT＊90mmF2.8を装着したときは、ファインダー内測距表示の距離目盛が∞～1(m)までの表示になります。

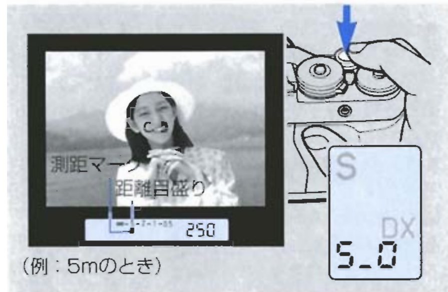




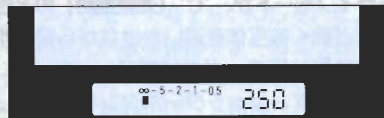
ファインダー



表示パネル



（例：5mのとき）



表示の例：
∞のとき



2 **ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。**

自動的にピント合わせが行われ、ピントが合うとファインダー内測距表示の測距マークが点灯し撮影距離を表示します。

同時に、表示パネルにも距離の値が表示されます。

3 **そのままシャッターボタンを押し込んで撮影してください。**

■ドライブモードが"S"（1コマ撮影）のとき：

● 一度ピントが合うとその位置でロック（フォーカスロック）されます。

● ピント合わせの苦手な被写体(P32)のときは測距不能"▮　▮"マークが出ます。このときシャッターは切れません。等距離にある別の被写体でフォーカスロック(P29)してピントを合わせてください。

■ドライブモードが、"C"（連続撮影）のとき：
子供など動く被写体を追いかけながら撮影する場合に効果的です。ドライブモードを "C" にセットします。シャッターボタンを半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。ピントが合ったことを確認してシャッターボタンを押し込んで、撮影してください。

● ピント合わせの苦手な被写体(P32)のときは測距不能 "▮ ▮" マークが出ます。そのまま撮影するとピンボケの写真になりますので、苦手な被写体をさけて撮影してください。

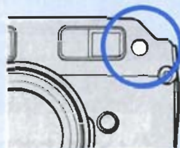


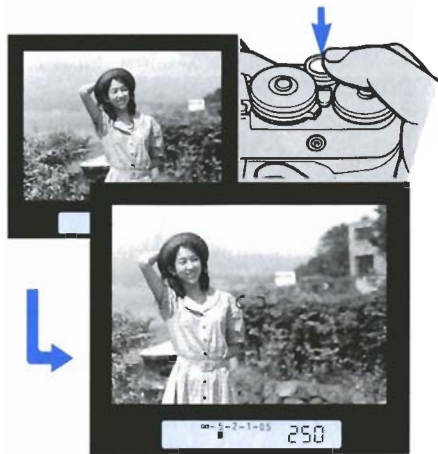





● 測距表示右端の "▮" マークが点滅しているときは被写体との距離が近すぎます。ドライブモードが "S" のときはシャッターが切れません。"C" のときはシャッターが切れますがピントは合いません。

● 被写体が暗いときや、コントラストが低くピントが合わせにくい場合は、自動的にＡＦ補助光を被写体に照射しオートフォーカスの精度を高める機構になっています。





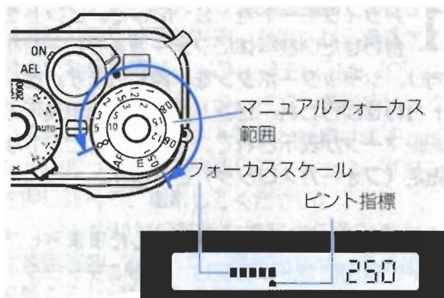
〈フォーカスロック〉

オートフォーカス撮影のとき、構図によって、ピントを合わせたい被写体がフォーカスフレームからはずれる場合には、フォーカスロックを利用して撮影します。

1 ドライブモードを“S”にして、ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。ピント合わせが行われ、ピントが合うと測距表示の測距マークが表示されて、その位置でピントが固定（フォーカスロック）されます。

2 シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 半押ししている間はピントはロックされていますので、カメラの向きを変えてもピントは変わりません。
- フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。
- ドライブモードが“C”（連続撮影）のときは、フォーカスロックできません。



マニュアルフォーカスのとき

1 フォーカスダイヤルを“マニュアルフォーカス範囲（∞～0.5m）”にセットします。

ファインダー内測距表示が図のようになり、フォーカススケール（ピントのずれ量）とピント指標を表示します。



2 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、ファインダー内の測距表示を見ながらフォーカスダイヤルを動かし、フォーカススケールとピント指標が一致するようにします。

・表示パネルには、フォーカスダイヤルに連動して撮影距離が表示されます。

● フォーカスダイヤルの距離表示は撮影距離の目安ですので表示パネルの値とは合わないことがあります。

測距表示とピントの状態：

表示	ピントの状態
フォーカススケール ピント指標	[後ピン] 被写体にピントが合っていません。 被写体より遠距離のものにピントが合っています。
	[合焦] 被写体にピントが合っています。
	[前ピン] 被写体にピントが合っていません。 被写体より近距離のものにピントが合っています。
点滅	[測距不能] 測距できず、正しいピントが得られません。

撮影範囲：

レンズ	撮影範囲
Biogon T＊ 28mmF2.8 Planar T＊ 45mmF2	∞～0.5m
・フォーカスダイヤル外側の距離表示が撮影距離の目安です。	
Sonnar T＊ 90mmF2.8	∞～1.0m
・フォーカスダイヤル内側の距離表示が撮影距離の目安です。	

● マニュアルフォーカスでは、AF補助光は発光しません。

〈ピント合わせの苦手な被写体〉

次のような被写体には、ピントが合わせられなかったり、極端に違う距離を測距することがあります。このようなときには、フォーカスロックを利用して等距離にある別の被写体に一度ピントを合わせてから撮影を行うか、目測で撮影距離を測りマニュアルフォーカスでピントを合わせてください。

①非常に明るいか、または非常に暗い被写体。

②被写体のコントラストが極度に低いとき。

③フォーカスフレームやその周辺に太陽光など強い光源があるとき。

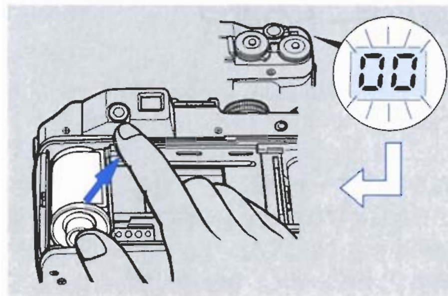
④フォーカスフレーム部内に極度に距離の違う2つ以上の被写体が共存するとき。

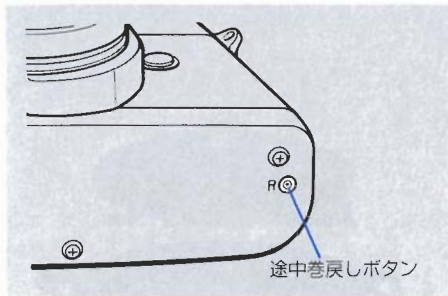
⑤横線のみの被写体、または縦線の繰返しパターンが続く被写体。

⑥高速移動する被写体。

⑦炎や煙のように実体のないもの。

フィルムの巻戻し





フィルムを全部撮影し終えると自動的に巻戻しが始まります。

巻戻し中はフィルムカウンターが減算表示し、巻戻しが終了すると、モーターが停止しカウンターの "00" 表示が点滅します。
モーターが停止し、フィルムカウンターが "00" になったのを確認してから裏ぶたを開け、フィルムを取出してください。

- 巻戻し後は、必ずフィルムを取出してください。巻戻し後は、一度裏ぶたを開けるまでカメラは作動しません。
- 取り出しは直射日光を避けてください。
- フィルムを途中で巻戻すときは、カメラ下側にある途中巻戻しボタンを先の細いもので押してください。(針などの鋭く尖ったものでは押さないようにしてください。)
- 取り出したフィルムは早めに現像に出しましょう。

撮影操作と応用テクニック

露出モードの選択

撮影目的や用途に応じて、次の露出モードが選べます。

絞り優先オート撮影

あらかじめ絞りをセットすることにより、被写体の明るさに応じてシャッタースピードを自動的にコントロールし、適正露出を得ます。被写界深度を利用しての撮影に適しています。

マニュアル露出撮影

絞りとシャッタースピードを撮影意図や目的に合わせて任意にセットし、撮影する方法です。また意図的に露出オーバーやアンダーにすることも簡単にできます。

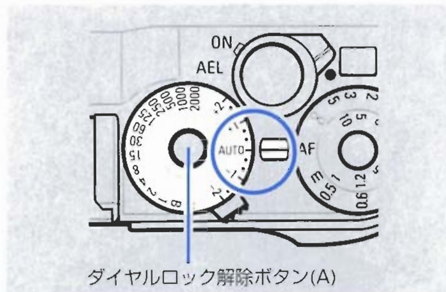
B：バルブ撮影

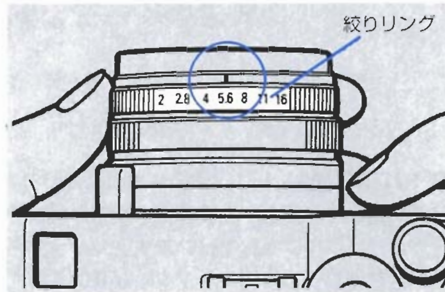
長時間露光を必要とする夜間撮影や天体撮影を行うとき、バルブ撮影を行います。シャッターボタンを押している間シャッターが開いて露光されます。

X：ストロボ撮影

当社専用ストロボ連動接点のない、汎用ストロボを使用するときに、この位置にします。詳しくは、「TLAストロボ以外のストロボによる撮影」(P51)をご覧ください。

絞り優先オート撮影



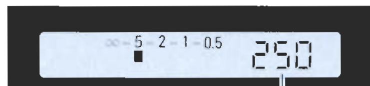


1 シャッタースピード／露出補正ダイヤルを“AUTO”にセットします。

● マニュアル露出（シャッタースピード目盛）から切り替えるときは、ダイヤルロック解除ボタン(A)を押しながらシャッタースピード／露出補正ダイヤルを回してください。

2 絞りをセットし、撮影します。

レンズの絞りリングを回して絞りをセットすると、絞りに応じた適正シャッタースピードが自動セットされ、ファインダー内に、自動セットされたシャッタースピードを表示します。



シャッタースピード

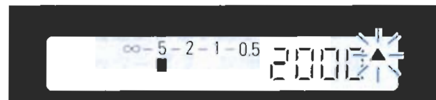
・普段使用するときは、シャッタースピードが1/60秒～1/2000秒になるように絞りをセットします。

・シャッタースピードが1/60秒より遅くなるようなときにはストロボを使用することをおすすめします。ストロボを使用しない場合はカメラぶれを防ぐため三脚を使用してください。

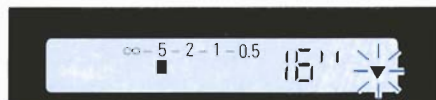
● 露出マーク "▲" が点滅するときは、露出オーバーになります。被写体が明るすぎますので、絞りをセットし直して、"▲" が消えるようにしてください。

● 露出マーク "▼" が点滅するときは、露出アンダーになります。被写体が暗すぎますので、照明を加えて被写体を明るくしたり、絞りを変えたりして "▼" が消えるようにしてください。また、専用のストロボを使うと明るくきれいな写真が撮れます。

● 露出オーバー　アンダー警告時でも、シャッターボタンを押せば撮影できます。

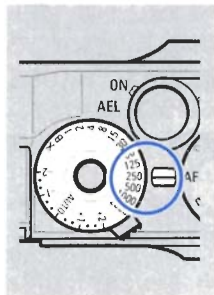


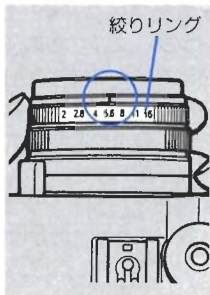
オーバー警告



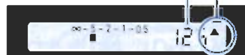
アンダー警告

マニュアル露出撮影

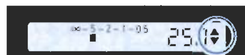




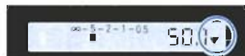
シャッタースピード　露出マーク



"▲" 点灯：オーバー



"▲▼" 点灯：適正



"▼" 点灯：アンダー

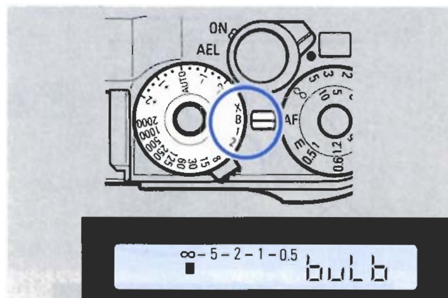
1 シャッタースピード／露出補正ダイヤルのシャッタースピードをダイヤル指標に合わせます。

● 絞り優先オート(+2～AUTO～-2)から切り替える場合は、ダイヤルロック解除ボタン(A)を押しながらシャッタースピード／露出補正ダイヤルを回してください。

2 レンズの絞りリングを回して**絞りをセットし、撮影します。**

ファインダー内には、セットしたシャッタースピードと、露出マークが点灯します。シャッタースピードダイヤルまたはレンズの絞りリングを動かし、"▲▼" 表示にしてください。

バルブ撮影（B）



1 シャッタースピード／露出補正ダイヤルを“B” にセットします。

2 絞りをセットし、撮影します。

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いて露光されます。

● カメラぶれを防ぐため、三脚で固定するか、安定した台などに置き、別売りのケーブルスイッチLをカメラに接続して撮影してください。

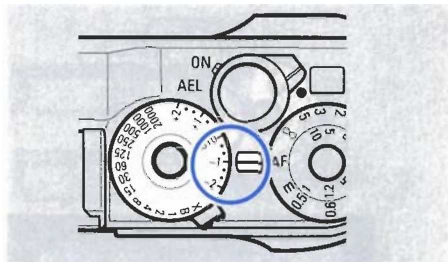
露出の補正

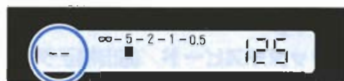
撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合、あるいは意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときには、次の3通りの露出補正方法があります。

● 補正は、シャッタースピードをコントロールして行います。

〈1. 露出補正ダイヤルの利用〉

露出モードが"絞り優先オート"（AUTO）の場合、通常は露出補正ダイヤルを"AUTO"の位置（露出補正値0）にセットしておきますが、露出を補正するときは、露出補正ダイヤルを回して希望する補正値を"ダイヤル指標"に合わせてください。補正値は+2EV～−2EVまでの範囲内で1/3EVごとにセットすることができます。





露出補正ダイヤルを"AUTO"（補正値0）以外にあわせると、ファインダー内に、補正に合わせて"+"または"−"マークが点灯し補正中であることを表示します。

撮影終了後は、必ず補正ダイヤルを"AUTO"の位置（露出補正0）に戻してください。



（＋補正）

（補正なし）

逆光撮影などのときは…
"＋1/3" ～ "＋2" の範囲で補正します。

逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは、露出を＋1/3～＋2の範囲で補正して、露出を多く与えます。



（－補正）

（補正なし）

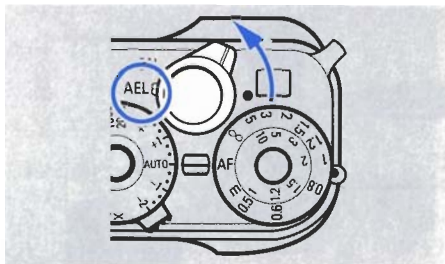
暗い背景などのときは…
"－1/3" ～ "－2" の範囲で補正します。

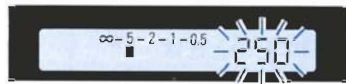
スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは、露出を－1/3～－2の範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

〈2. AEロックの利用〉

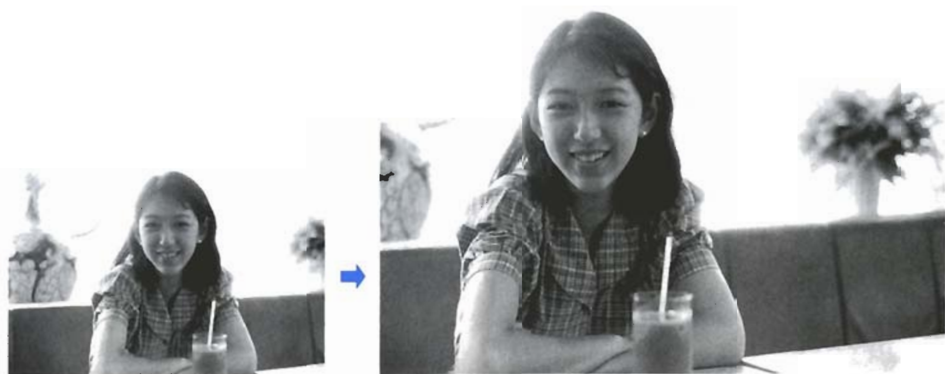
絞り優先オート露出撮影時に、被写体の露出を記憶する機構です。逆光時での撮影や動く被写体を一定の露出で連続撮影するときなど、露出を固定したいときに使います。
メインスイッチを "AEL" にセットすると、セット時点の露出がカメラに記憶され、そのままシャッターボタンを押すと背景の変化に関係なく記憶された露出でシャッターが切れます。

1 意図する構図のうち、まず主要被写体にファインダーの中央部分を向け、メインスイッチを "ON" → "AEL" に切り替えます。これで露出が固定(AEロック)されます。





● AEロック中は、ファインダー内シャッタースピード表示が点滅に変わります。
● このカメラは、シャッタースピードを記憶する方式を採用しています。AEロック後に絞りを変えると露出量が変化します。
● AEロックのセットは、ファインダー内表示が点灯しているときに行ってください。



2 ファインダーを元の意図した構図に戻して撮影します。

● AEロック中は、露出が記憶され続け、何度でも同じ露出値で撮影できます。表示は省電のため16秒経過後に消灯します。

● 連続撮影（ドライブモード "C"）するときも、あらかじめ被写体の明るさをAEロックしておけば背景の変化による影響を受けずに同じ露出の写真が得られます。

● AEロック中に露出補正ダイヤルを変更すると、ロックした値を基準にして補正します。

〈3. A・B・C撮影（3コマ連続自動露出補正)〉

このモードにセットすると、自動的にスタンダード、オーバー、アンダー、と3段階の露出バリエーションで連続撮影ができます。

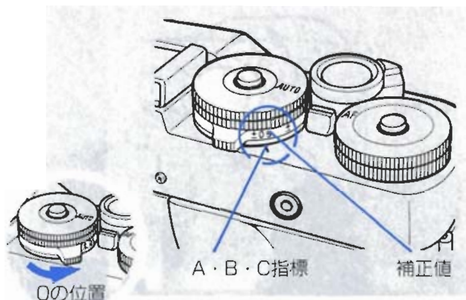
非常に微妙な露出条件のもとでも、露出決定に気を取られることなくシャッターを押し続け、チャンスを確実にものにすることができます。

* A・B・C：Autmatic Bracketing Control

1 A・B・Cレバーを動かし、補正幅をセットすると、A・B・C撮影に切り替わります。

補正幅は±0.5EV、±1EV の2種類が設定できます。

● 絞り優先オートでは、撮影するごとに測光しなおし、その時の測光値に対して補正を行います。周囲の明るさの変化による影響を受けずにA・B・C撮影がしたいときは、あらかじめAEロックをしてから撮影することをおすすめします。



● マニュアル露出ではセットしたシャッタースピードに対して補正を行います。

● 露出補正ダイヤルを"0"以外にセットすると、その補正値を基準にしたA・B・C撮影になります。

● A・B・C撮影が終了したら、必ずA・B・Cレバーを右方向へ止まるまで戻して("0"の位置)ください。

● ストロボを併用するA・B・C撮影はできません。


スタンダード


オーバー


アンダー

2 ドライブモードを連続撮影“C”にして、シャッターボタンを押し続けると、セットした補正幅に従って、スタンダード、オーバー、アンダー、の順で撮影し、3コマ撮影し終わると止まります。ドライブモードを“S”にすると1コマごとのA・B・C撮影になり、“⏱”にすると、シャッターボタンを押した後、10秒後に連続撮影によるA・B・C撮影になります。

A・B・C撮影中は撮影順序を示すため、フィルムカウンターが次のように変化します。

スタンダード：両方の桁が点滅

オーバー：左側の桁のみが点滅（ファインダー内“+”表示

アンダー：右側の桁のみが点滅（ファインダー内“−”表示

例えば18コマ目からA・B・C撮影を行った場合は下記のようになります。

	1コマ目	2コマ目	3コマ目	（以後繰返し）
補正:	スタンダード	オーバー	アンダー	スタンダード
カウンター:	18	19	20	21
表示:	左右点滅	左側点滅	右側点滅	左右点滅

● 補正幅がカメラの補正限界を越えるときは、限界補正値で撮影されます。

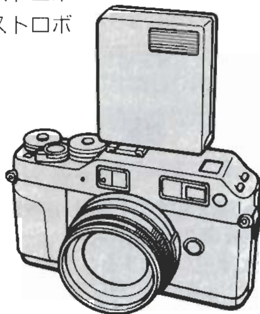
● 途中で中止するときは、A・B・Cレバーを右方向へ止まるまで回してください。

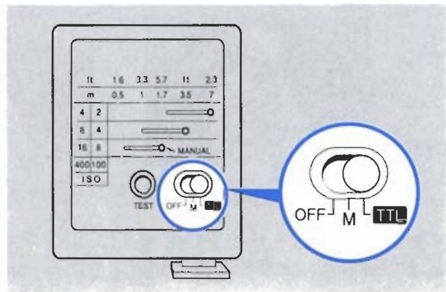
● A・B・C作動中にメインスイッチを“OFF”にして再度“ON”にすると、A・B・C撮影はまた1回目より順に3コマ分行われます。

室内や夜間の撮影では、ストロボの使用をおすすめします。このカメラとコンタックスTLAフラッシュシステムを組み合わせるとカメラ側でストロボ光を自動制御する“TTLダイレクト測光”による撮影が行えます。

〈TTLダイレクト測光による撮影〉

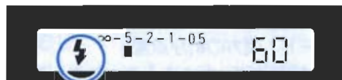
1 カメラにTLAストロボを取り付け、ストロボの電源を入れます。





2 ストロボを“TTLオートモード”にセットします。

充電が完了すると下図のようにファインダー内に“ϟ”マークが点灯し、次ページの表のようにシャッタースピードが自動セットされます。



■ "絞り優先オート" のとき

自然光の測光値	自動セット シャッター スピード	表示
16秒～1/60秒	1/60秒	"60" が点灯
1/60秒 ～1/100秒	1/60秒 ～1/100秒	"60" が点灯 ～ "100" が点灯
1/100秒を越え ～1/2000秒	1/100秒	"100" が点灯、"▲" マークが点滅*

*露出オーバーになります。絞りを絞り込んで "▲" マークが消えるようにして撮影してください。

■ "マニュアル露出"、"B"（バルブ）のとき

マニュアル露出のときはシャッタースピードは自動セットされません。必ず "X" または1/60秒以下にセットしてください。

セットしたシャッタースピードがファインダー内に点灯表示されます。

なお、"X" のときはシャッタースピードが1/100秒にセットされ、ファインダー内に "100" が点灯表示します。

"B" のときは "バルブ撮影" になります。

3 絞りをセットして撮影します。

撮影後、調光が行われたときはファインダー内 "⚡" マークが2秒間点滅します。

● 撮影後、"⚡" マークが点滅しないときは露出アンダーになりますので、絞りや撮影距離を変えて撮影しなおしてください。

● A・B・Cレバーは必ず "0" の位置に戻してください。

● フィルム感度はISO25～400に連動します。（露出補正は含みません。）



〈スローシンクロ撮影〉

ストロボ撮影で夕景や夜景などの情景を生かした撮影を行なうには1/30秒以下のスローシンクロ撮影が有効です。TLAストロボのTTLオートモードを利用すると簡単な操作でスローシンクロ撮影が行えます。



通常のストロボ撮影

■ **"絞り優先オート" のとき：**

構図を決め、メインスイッチを "AEL" にセットします。シャッタースピードが、自然光の測光値にロックされますのでストロボの充電完了を確認して撮影してください。

■ **"マニュアル露出" のとき：**

シャッタースピードを1/30秒以下にセットします。ストロボ充電完了後、絞りを動かして "▲▼" が点灯するようにし、ストロボの充電完了を確認して撮影してください。

● スローシンクロ撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれ防止のために三脚をご使用ください。



〈デイライトシンクロ撮影〉

屋外の撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、TLAストロボを使ってTTLオートモードで撮影すると人物も背景もきれいに描写することができます。



ストロボを使用しない場合

■ “絞り優先オート”のとき：ストロボ充電完了後、“▲”が点滅した場合は、絞りを絞り込んで、“▲”を消して撮影してください。

■ “マニュアル露出”のとき：シャッタースピードを“X”または1/60秒以下にセットしてください。

絞りを調整し、ファインダー内露出警告マークが“▲▼”表示になるようにして撮影します。

〈露出補正ダイヤルの利用〉

TTLオート撮影では、ストロボの発光量はカメラの露出補正ダイヤルに連動します。ストロボ光量を調整して効果を出したいときは、露出補正ダイヤルを利用してください。



後幕シンクロ撮影

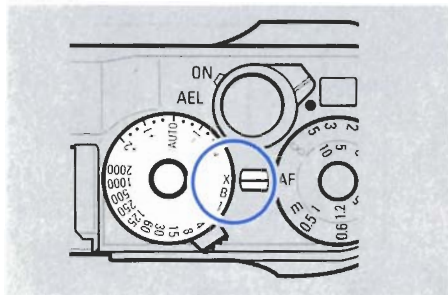


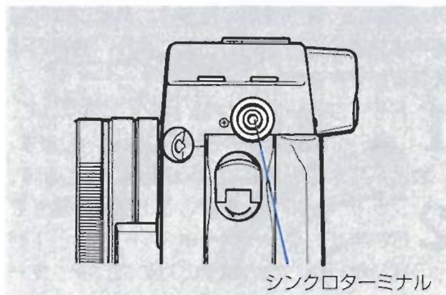
先幕シンクロ撮影

〈後幕シンクロ撮影〉

後幕シンクロは動きのある被写体をスローシンクロ撮影するときに効果があります。通常のストロボ撮影は、シャッターの先幕が走行を終えた直後にストロボを発光（先幕シンクロ）させて撮影します。このカメラと、後幕シンクロ機能のある当社ストロボとを組み合わせると、後幕が走行を始める直前にストロボを発光（後幕シンクロ）させることができます。ストロボ光で照らされた被写体の後ろに、自然光で照らされた被写体の動きが流れるように写り、自然な動きを表現できます。

- 露出制御は、通常のストロボ撮影(先幕シンクロ)と同様です。
- P46のイラストに使用のCONTAX TLA 140には後幕シンクロ機能はありません。





〈TLAストロボ以外のストロボによる撮影〉

1 カメラにストロボを取付け、シャッタースピードダイヤルを"X"(1/100秒)または1/60秒以下にセットします。

2 絞りをセットして撮影します。

絞りは、使用するストロボの取扱説明書に従って決めてください。

● ダイレクト接点式でない、コードを必要とするストロボは、カメラ側面のシンクロターミナルに接続してください。

多重露出撮影

同じ画面に、違う種類の被写体、あるいは同じ被写体を重ねて写し込むことにより、独特の写真表現ができます。

1 ドライブモード切り替えボタンを押して、"▣"（多重露出モード）にセットします。

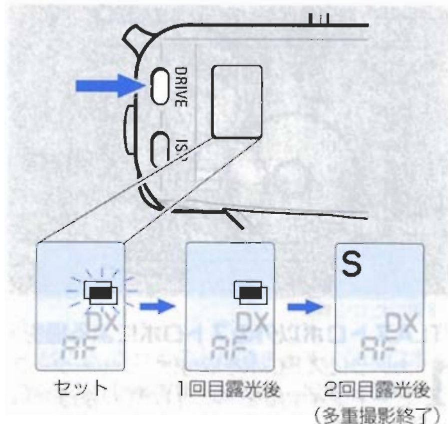
・表示パネルの"▣"が点滅表示になります。

2 シャッターボタンを押して1回目の露光を行います。シャッターボタンを押すと1回目の露光を行い、次の露光のためにシャッターだけがセットされます。

・表示パネルの"▣"が点灯に変わります。

3 さらにシャッターボタンを押して2回目の露光を行います。2回目の露光を行うと、フィルムが送られて多重露出モードが終了し、"S"（1コマ撮影）になります。

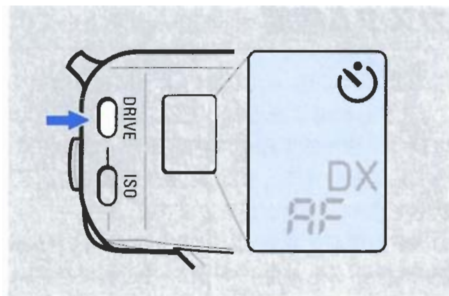
・3回以上の多重露出を行うときは、上記"2"の次にもう一度ドライブモード切り替えボタンを押すと"▣"マークが点灯から点滅（"1"に戻る）になり、さらに1回多重露出が行えます。

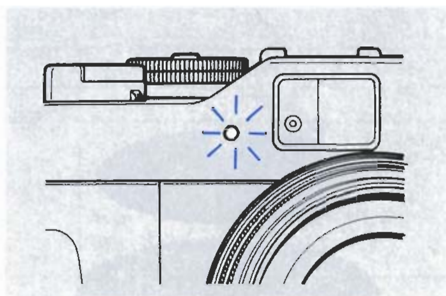


セット　1回目露光後　2回目露光後（多重撮影終了）

- 1回目露光の後、メインスイッチを"OFF"にすると、次に"ON"にしたときは、多重露出の続きの撮影(2回目の露光)になります。
- 1回目の露光後の多重露出は中止できませんのでご注意ください。

セルフタイマー撮影





1 ドライブモード切り替えボタンを押して、"⏲"（セルフタイマー撮影）にセットします。

2 ピントを合わせ、シャッターボタンを押してください。

セルフタイマーが作動し10秒後にシャッターが切れます。セルフタイマー作動中、カメラ前面のセルフタイマーLEDが点滅します。

● セルフタイマースタート時に露出とピントがロックされます。

● セルフタイマー撮影時は、三脚をご使用ください。

● 露出モードを"B"（バルブ）にセットしたときはセルフタイマーは使用できません。

● セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、セルフタイマー作動が最初に戻り、10秒後にシャッターが切れます。

● メインスイッチを"OFF"にすると、セルフタイマーの作動は途中解除されます。

その他

カスタム機能

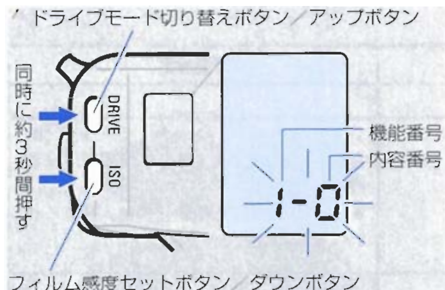
このカメラには、次の表のように、3項目の"カスタム機能"を搭載しています。お買い上げ時は、標準的な機能（内容番号"0"）にセットしてあります。（この取扱説明書では"0"状態を基本に説明してあります。）
カスタム機能を変更したい場合は「カスタム機能のセットのしかた」（P56）をご覧ください。

● カスタム機能を変更した場合は、カメラの操作にご注意ください。

カスタム機能一覧表

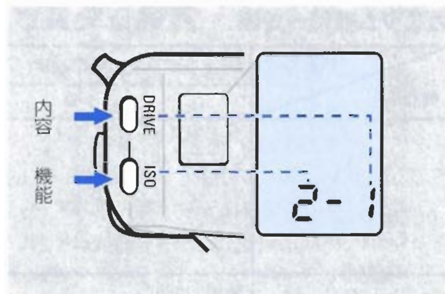
内容番号 / 機能番号	標準設定 0	変更設定 1
1 AEロックの方法	メインスイッチを〝AEL〟にする	シャッターボタンを半押ししている間、AEロックする。(ストロボ充電完了時を除く) ● メインスイッチによる連続ＡＥロック時は連続AEロックが優先します。
2 A·B·C撮影順序の切り替え	撮影順序が、 スタンダード ↓ オーバー ↓ アンダー	撮影順序が、 オーバー ↓ スタンダード ↓ アンダー
3 フィルム巻戻し時のフィルム残り	フィルムをパトローネ内にすべて巻き込む	フィルムの先端をパトローネの外に残す

カスタム機能のセットのしかた



1 表示パネルが、図のような表示（点滅）になるまで（約3秒間）アップボタンとダウンボタンを同時に押し続けます。

図のような表示（点滅＝カスタム機能セット状態）になったら、一旦ボタンから指を離してください。

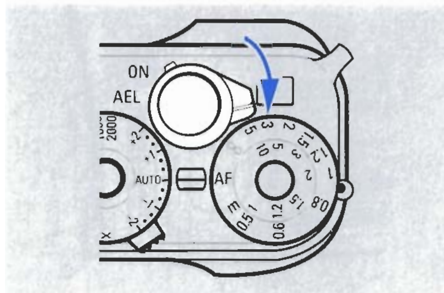


2 "ダウンボタン" を押して、セットする機能の番号を選び、表示させます。

● "ダウンボタン" を押すごとに、機能の番号が1-→2-→3-→1-(以下繰返し)と変わります。

3 "アップボタン" を押して、内容の番号を選択します。

● "アップボタン" を押すごとに、数字が変わりますので、セットする番号にしてください。



4 メインスイッチを一旦"OFF"にしてください。これでセット完了です。

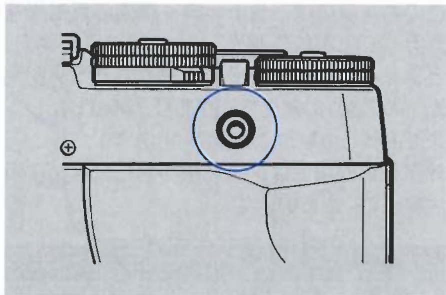
● シャッターボタンを半押しする、またはそのまま8秒間経過してもセットが完了します。

カスタム機能をセットした後は、必ずドライブモードを合わせ直してください。

このカメラには、シャッター幕面の反射光を測る"TTL実絞り測光"（中央重点平均測光）とファインダー横の受光素子で測る"外部測光"の2通りの測光方式があり、装着したレンズによって自動的に切り替わります。
外部測光の場合は、測光窓が遮られないよう注意してください。

測光方式	レンズ
TTL実絞り測光	Biogon T＊ 28mmF2.8 Planar T＊ 45mmF2 Sonnar T＊ 90mmF2.8
外部測光	Hologon T＊ 16mmF8

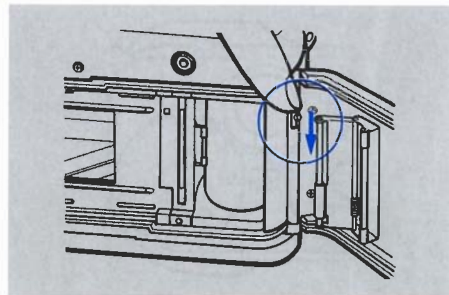
ケーブルスイッチソケット



ケーブルスイッチＬを接続する接点で、これらアクセサリーからの電気信号を伝え、シャッターを作動させます。

● ケーブルスイッチソケットには、市販されている一般のメカ方式ケーブルレリーズは取付けないでください。故障の原因になります。

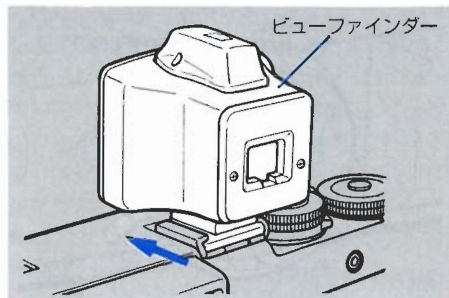
裏ぶたの取りはずし



カメラの裏ぶたは、着脱ピンを押し下げて取外すことができます。

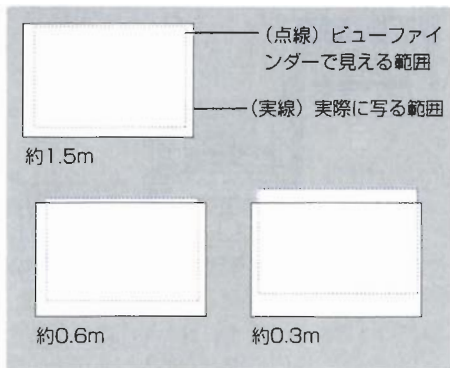
G1専用のデータバック〝CONTAX データバックGD-1〞（別売り）が使用できます。

ホロゴン16mm F8について

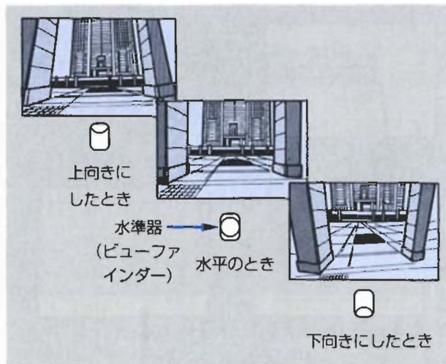


ホロゴン16mm F8は超広角の特殊レンズであるため、使用にあたっては次の点にご留意ください。

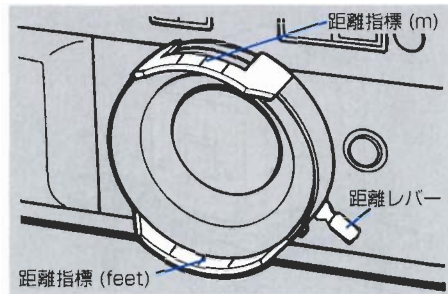
〈1. ビューファインダー〉
ホロゴン16mm F8使用時は、必ずレンズに付属のビューファインダー（GF-16mm）をご使用ください。ビューファインダーは、カメラのアクセサリーシューに止まるところまで確実に差し込みます。



1 **撮影範囲**：撮影距離により、ビューファインダーで見える範囲に対し、実際に写る範囲はおよそ図のようになります。この図を目安にして構図を決めてください。特に約1mより近距離で撮影する場合は、被写体が撮影画面からはみ出ないよう、余裕を持って構図を決めてください。



2 水準器：このレンズは、超広角のためわずかな上下の傾きでも作画に大きく影響を与えます。ビューファインダーには水準器が内蔵されていますので、建築物や柱などが平行に見えるように撮影する場合は、水準器の"球"が中央になるようにして撮影してください。



〈2. ピントの合わせかた〉

ピント合わせはレンズの距離レバーを手動で動かして行います。

被写体までの距離をレンズの距離指標に合わせて撮影してください。

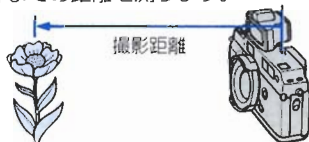
被写体までの距離の測定（測距）には次の方法があります。

①**目測：目分量で距離を測ります。**

②**カメラの測距機能を利用**(∞〜約0.5mまで)：
ドライブモードを"S"にし、フォーカスダイヤルを"AF"にして、カメラファインダー内のフォーカスフレームを被写体に向けてシャッターボタンを半押しすると、表示パネルに被写体までの距離(m)が表示されます。

● ピントが合せられない表示がでたときは、一旦シャッターボタンから指を離してください。再度シャッターボタンを半押しし、ピントが合ったことを確認してからファインダーから目を離し、距離を読み取ってください。

③**メジャーで実測**(〜0.3mまで)：
カメラの"⊖"マーク（距離基準指標）から被写体までの距離を測ります。



〈3. 露出について〉

このレンズの明るさは、F8（固定）です。絞りの調節はできません。

● マニュアル露出の場合は、シャッタースピードで露出を調節してください。

● このレンズを取り付けると、測光方式は自動的に"外部測光"に切り替わります。

〈4. グラデーションフィルター4×について〉

このレンズは超広角レンズ特有の周辺光量低下があります。この特性を活かした撮影以外に、画面周辺まで活かした撮影にしたい場合はレンズに付属のグラデーションフィルター4×を併用します。グラデーションフィルター4×を使用するときは露出の補正を行ってください。

● 絞り優先オートのときは、シャッタースピード／露出補正ダイヤルを"+2"にします。

● マニュアル露出のときはシャッタースピードを2段階遅くします。

〈5. ストロボ撮影について〉

TTLダイレクト測光によるストロボ撮影はできません。外部測光オートストロボ撮影、またはマニュアルストロボ撮影を行ってください。

- ストロボは、シンクロターミナルに接続してください。
- レンズの画角が広いため、周辺まではストロボ光が行きわたらない場合があります。

〈6. その他の注意事項〉

画角が広く、且つレンズの長さが短いため、カメラを持つ手等、余分なものが写らないよう注意してください。ケースをつけての撮影では指が写り込みやすいので、特にご注意ください。



- レンズや測距窓、ファインダーなどにゴミ・ホコリがある場合は、ブロワーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払い、指紋などがついた場合はむやみに拭かず、市販のレンズ紙などで軽く拭いてください。
- 本体の汚れを落とすときは、柔らかい布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの溶剤は絶対に使用しないでください。
- 海岸・山岳やほこりの多い所などでの撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は腐食の原因となり、砂ぼこりなどは内部の精密な機構に悪影響を及ぼします。
- 暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間置いておくと、フィルムや電池の性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。
- 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズやファインダーがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、内

部に水滴が生じると腐食の原因にもなりますので、できるだけ急激な温度変化は避けてください。

● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、テスト撮影をしてから使用してください。また予備の電池を携行することをおすすめします。**

● カメラは精密機器ですので、落としたり、大きなショックを与えたりしないでください。

シャッター幕について

シャッター幕は非常に薄い材質でできています。絶対に指で突いたり触れたり拭いたりしないでください。フィルム交換の際はフィルム先端がシャッター幕に触れないようご注意ください。また、ブロワーで吹く際は強く吹かないでください。強く吹くと変形や破損の恐れがあります。ボンベタイプのブロワーは絶対に使わないでください。

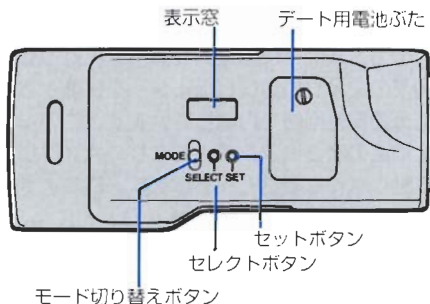
マイクロコンピューターの保護回路について

このカメラは外部の強力な静電気に対して内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内蔵しています。この安全回路の働きにより極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は、メインスイッチをＯＦＦにし、一旦電池を取出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

〈カメラの保管について〉

● カメラは、湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しの良い所に保管してください。

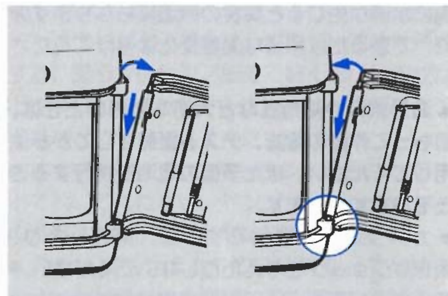
● 長期間カメラを使わないときは、電池を取り出しておきましょう。液漏れによる損傷を防ぎます。



〈CONTAX データバック GD-1〉

カメラの裏ぶたと交換して装着するだけで、カメラボディと連動するクォーツ制御の液晶式データバックです。

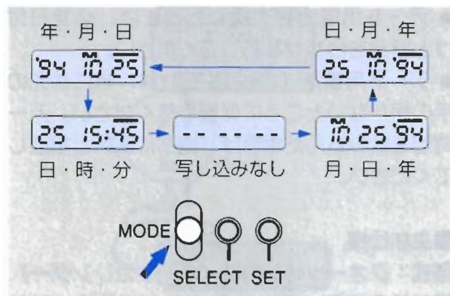
オートデート機構により日付けや時刻を自動的に写し込むことができます。



■カメラへの取り付け

1 カメラに標準装備されている裏ぶたを開き、裏ぶた着脱ピンを押し下げながら取りはずします。

2 データバックの取り付け軸の下側をカメラの取り付け穴に差込み、着脱ピンを押し下げながら上側の軸も取り付け穴に合わせ、着脱ピンから指を離します。これで取り付けは完了です。



■日付け、時刻の写し込み

1 写し込むモードを選びます。
モードボタンを押すごとに
年・月・日→日・時・分→
-- -- --（写し込みなし）→
月・日・年→日・月・年
の順に表示が変わりますので、写し込みたい表示に合わせます。

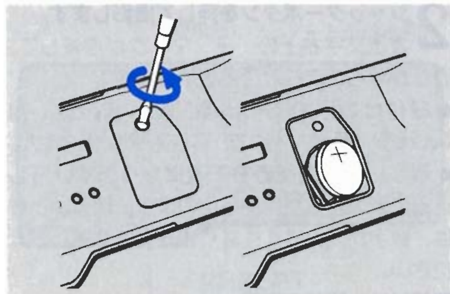
2 シャッターボタンを押して撮影します。
表示文字右上の“–”マークが点滅して、表示が写し込まれたことを示します。

● 日付け表示の上に出る“M”表示は、月(Month) を示すマークで、写し込みはされません。

● 写し込みは画面の右下隅になります。写し込み位置の背景が白や黄色のように明るいときは、数字が読みにくくなりますので注意してください。

■日付け・時刻の修正

1 モードボタンを押して修正する表示を出します。
2 セレクトボタンを押して修正する数字を点滅させます。
3 セットボタンを押して正しい数字になおします。（時刻合わせで：が点滅している場合は秒合わせです。時報に合わせてセットボタンを押すと正確な時刻合わせができます。）
4 修正が終わったら数字の点滅が消えるまでセレクトボタンを押してください。



■データバック用電池の交換

データバック用電池は、長寿命のリチウム電池(CR2025)を採用しているため約3～4年間は交換不要です。電池が消耗してくると日付けや時刻の写し込みがうすくなったり、液晶表示が正常な表示をしなくなります。このときは図のようにして電池を交換してください。

● デート用電池を交換したときは、必ず日付けと時刻を合わせなおしてください。

● デート用電池（CR2025）は、特に幼児の手の届かないところに保管してください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

■主な仕様

型式：クオーツ時計内蔵（オートカレンダー）

写し込み方法：写し込み内容…年月日／日時分／写し込みなし／月日年／日月年

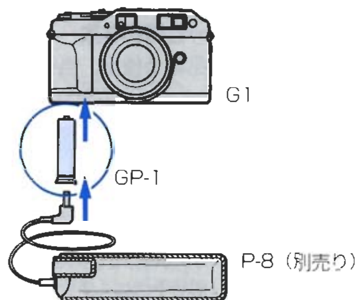
シャッター作動に連動した自動写し込み

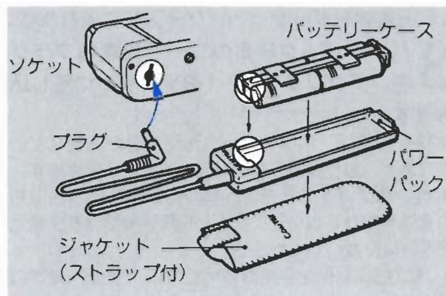
フィルム感度設定：自動設定

電源：3Vリチウム電池(CR2025)1個使用

寸法・重量：132.5（幅）×54（高さ）×17.5（奥行き）mm, 80g（電池別）

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。





〈CONTAXパワーパックアダプターGP-1〉

G1に外部電源CONTAX パワーパックP-8（別売り）を使用するためのアダプターです。

パワーパックP-8は、1.5V単3形乾電池4本、または単3形ニッカド電池4本を使用する外部電源で、寒冷地など、気温の低い場所で、寒さの影響による電池の性能低下を防ぐために、カメラの外部で電源を保温しながら撮影するために利用します。

■使いかた

1 カメラにパワーパックアダプターGP-1を取り付けます。

カメラのリチウム電池を取り出し、代わりにGP-1をはめ込み、回して固定します。

2 パワーパックP-8に電池を装填します。

1 パワーパックP-8に付属しているバッテリーケースに、表示に従って単3形乾電池4本を入れP-8本体に取り付けます。

2 P-8本体をジャケット（ケース）に入れます。

3 パワーパックP-8のコード先端のプラグを、アダプターGP-1のソケットに差し込みます。

- 撮影の際に、パワーパックを防寒具の内側などに入れると、より保温の効果を高めることができます。
- 電池を交換するときは、種類の違うものや古いものを混ぜたりしないで、4本とも同じ種類の新品電池を同時に交換してください。
- パワーパックを長期間使用しないときは、電池の漏液を防ぐため、バッテリーケースから電池を取りはずしておいてください。
- 接続コードの取りはずしは、コードを引っぱらずにプラグ部を持って行ってください。

■P-8の仕様

電源：1.5V単3形乾電池4本、または1.2V単3形ニッカド電池4本

構成：パワーパック本体、バッテリーケース、ジャケット（ストラップ付き）

コードの長さ：1.5m

■使用バッテリーと撮影本数

（24枚撮り、新品電池使用、当社撮影基準による）

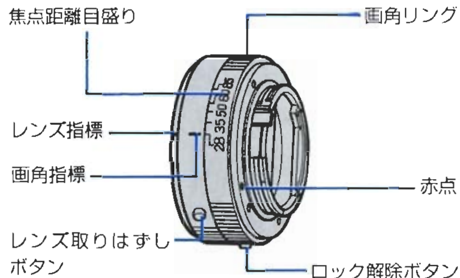
バッテリー種類	常温
1.5V単3形アルカリ乾電池4本	約25本
1.2V単3形ニッカド電池4本	*約12本

*ニッカド電池はフル充電して使用したとき。

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

三脚使用上の注意

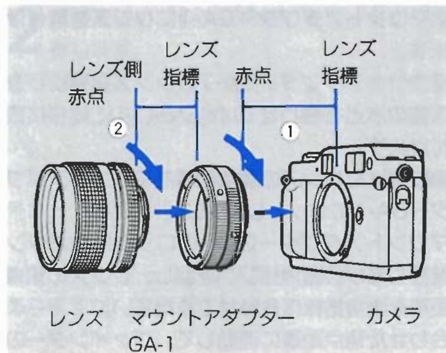
このカメラはコンパクトに作られているために、大型三脚に取付けた場合、雲台の台座でアダプターGP-1のソケットがかくれてパワーパックP-8が取付けられないことがあります。このような場合は、市販のクイックシューアダプターなどをカメラと三脚の間に取付けて、GP-1にP-8を取付けられるようにしてください。



〈CONTAXマウントアダプターGA-1〉

G1に、CONTAX一眼レフカメラ用カールツァイスレンズを取付けるためのアダプターです。

ピント合わせは、レンズの距離リングを手動で回して行います。



■取付けかた

1 カメラにマウントアダプターGA-1を取付けます。

マウントアダプターGA-1の赤点をカメラのレンズ指標に合わせてはめ込み、時計方向へカチッと音がして止まるまで回して取付けます。

②マウントアダプターGA-1にレンズを取付けます。
マウントアダプターGA-1のレンズ指標にレンズ側の赤点を合わせてはめ込み、①と同様に取付けます。

③取付けたレンズの焦点距離をマウントアダプターGA-1にセットします。
マウントアダプターGA-1のロック解除ボタンを押しながら画角リングを回し、レンズの焦点距離を画角指標に合わせてください。
合わせた焦点距離に連動して、ファインダーの画角が変わります。
セットできる画角は、焦点距離28mm、35mm、50mm、60mm、85mmのレンズです。

● マウントアダプターにない焦点距離のレンズを使用する場合は、最も近い値にセットしてください。



レンズをマウントアダプターGA-1から取りはずすときは、マウントアダプターのレンズ取りはずしボタンを押しながらレンズを反時計方向に回して取りはずします。
マウントアダプターをカメラから取りはずすときは、カメラのレンズ取りはずしボタンを押しながらマウントアダプターを反時計方向へ回して取りはずします。

■使いかた

1 撮影距離を測り、レンズにセットします。

「カメラの測距機能が使用できる場合」
まず、カメラのドライブモードを“S”にし、フォーカスダイヤルを“AF”にしてシャッターボタンを半押しします。
表示パネルに撮影距離が表示されますのでレンズの距離リングを手動で回して距離をセットしてください。

「カメラの測距機能が使用できない場合」
目測、またはメジャー等で距離を測り、レンズの距離リングを手動で回して距離をセットしてください。

※レンズの焦点距離およびレンズ外径により使用方法が変わります。詳しくは72〜73ページをご覧ください。

2 構図を決め、レンズの絞りをセットして撮影します。

被写界深度を利用して確実にピントを合わせるため、レンズはF4より絞って撮影してください。
・測光は、“TTL実絞り測光”になり、絞り優先オート撮影が行えます。

● ファインダーにレンズ鏡胴が見えることがありますが、実画面には現れません。

■GA-1の仕様

寸法：60（径）x16.5（長さ）mm
重量：85g

■カメラの測距機能が使用できるレンズ

レンズ焦点距離 ＼ レンズ外径	28mm~85mm	28mm~85mmとは異なるレンズ
ø66mm未満のレンズ	∞~1mの範囲で測距機能が使用できパララックスが補正されるレンズ Distagon T＊ : 28mmF2、28mmF2.8 35mmF2.8 Tessar T＊ : 45mmF2.8 Planar T＊ : 50mmF1.4、50mmF1.7 ∞~3mの範囲で測距機能が使用できパララックスが補正されるレンズ Makro-Planar T＊ : 60mmF2.8C Sonnar T＊ : 85mmF2.8	ファインダーの画角は取り付けたレンズの画角と異なります。 マウントアダプターの画角指標をレンズの焦点距離に最も近い値にセットして、目安としてご使用ください。 また、パララックス補正も連動しませんのでご注意ください。

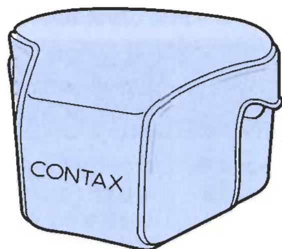
※ パララックス ………ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲のズレ。視差。

● レンズ外径よりも、その外径が大きくなるフード、フィルターを装着するとカメラの測距機能が正しく作動しなくなりますので、使用しないでください。

■カメラの測距機能が使用できないレンズ

レンズ焦点距離 レンズ外径	28mm～85mm	28mm～85mmとは異なるレンズ
ø66mm以上のレンズ	目測やメジャー等で測った距離を、フォーカスダイヤルを回して表示パネルにセットすると、パララックス補正が連動します。 ∞～1mの範囲でパララックスが補正されるレンズ：焦点距離が28mm～60mmのレンズ ∞～3mの範囲でパララックスが補正されるレンズ：焦点距離が85mmのレンズ	ファインダーの画角は取り付けたレンズの画角と異なります。 マウントアダプターの画角指標をレンズの焦点距離に最も近い値にセットして、目安としてご使用ください。 また、パララックス補正も連動しませんのでご注意ください。

● カメラにマウントアダプターGA-1とレンズを装着して使用するときは、カメラに無理な力が加わらないよう、必ずレンズ側を持って撮影してください。
また、持ち運ぶ際も、レンズ側を持って運んでください。



〈CONTAX スタンダードケース GC-11〉

G1専用レンズ28mmF2.8、45mmF2を装着したまま収納できる速写タイプのセミハードケースです。カメラボディケース（GC-110）とレンズカバー（フロントカバー GC-111）を分離することができます。

● この他に、90mmF2.8を収納できるフロントカバーロングGC-112が用意されています。

ケース	適合
スタンダードケース GC-11 （ボディケース GC-110 ＋フロントカバー GC-111）	カメラ＋ ビオゴンT*28mmF2.8 ＋フィルター（1枚）＋フード ＋メタルキャップ
	カメラ＋ プラナーT*45mmF2 ＋フィルター（1枚） ＋レンズキャップ
ボディケース GC-110 ＋フロントカバー ロング GC-112	カメラ＋ プラナーT*45mmF2 ＋フィルター（1枚）＋フード ＋メタルキャップ
	カメラ＋ゾナーT*90mmF2.8 ＋フィルター（1枚）＋フード （フードは逆向きにはめ込んで収納）＋メタルキャップ

主な仕様

型式：35mmフォーカルプレンシャッター式
AFレンジファインダーカメラ
画面サイズ：24×36mm
レンズマウント：コンタックスGマウント
シャッター型式：電子制御式縦走行フォーカルプレンシャッター
シャッタースピード：Av…16秒〜1/2000秒
マニュアル…B、X（1/100秒）、1秒〜1/2000秒
シンクロ接点：X接点（1/100秒以下で同調）
ダイレクト接点、およびシンクロターミナル付
セルフタイマー：電子式、作動時間10秒
シャッターレリーズ：電子レリーズ方式、専用ケーブルスイッチソケット付
露出制御：①絞り優先オート ②マニュアル露出
③TTLオートストロボ ④マニュアルストロボ
測光方式：TTL実絞り測光(中央重点平均測光)/外部測光（装着レンズにより自動切り替え）
測光連動範囲：
TTL実絞り測光…EV1〜19（ISO100,F2）
外部測光…EV3〜17(ISO100)(受光角約70°)
フィルム感度連動範囲：
DXコードによる自動設定時…ISO25〜5000
マニュアル設定時…ISO6〜6400

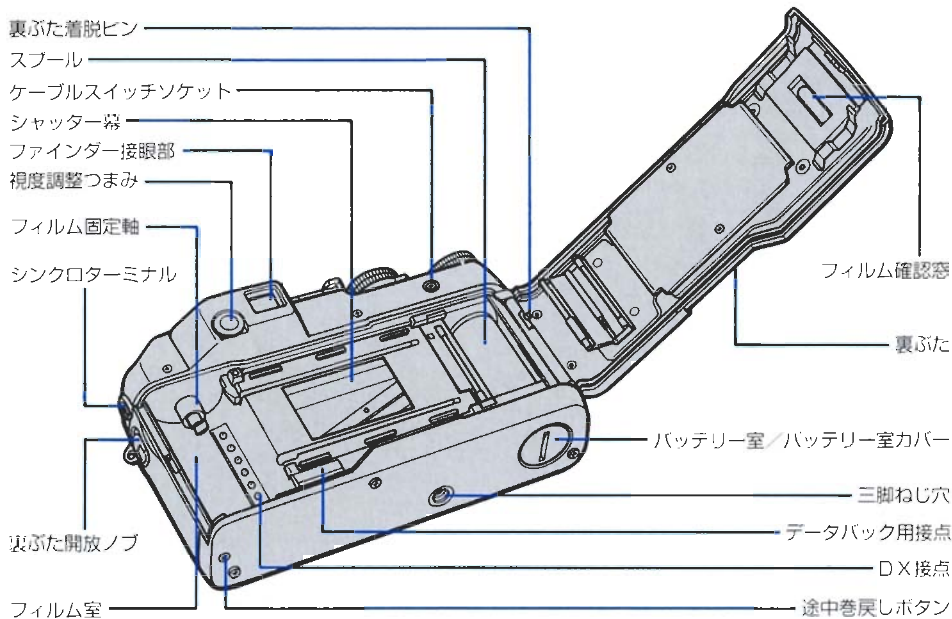
AEロック：シャッタースピード記憶方式
露出補正：+2EV〜−2EV（1/3ステップで設定可能）
A・B・C機構：A・B・Cレバーの設定による
露出補正幅　±0.5EV／±1EV
ストロボ調光連動方式：TTLダイレクト調光方式
ストロボ同調：専用ストロボの充電完了によりシャッタースピード自動切り替え
後幕シンクロ：後幕シンクロ機能のある当社ストロボと組み合わせることにより可能
ピント合わせ：フォーカスダイヤルによる、オートフォーカス、マニュアルフォーカス切り替え式
測距方式：基線長強化型外部パッシブAF方式
AF補助光、フォーカスロック機構付
測距検出範囲(ISO 100)：EV 3〜19
ファインダー内および表示パネルに距離表示
ファインダー：実像式ズームファインダー（装着レンズに連動）
・視野率　90%
・倍率　0.57倍
（45mmレンズ、∞、視度−1Dのとき）
視度補正：視度補正機構内蔵、
・補正範囲　+0.3D〜−2D

ファインダー内表示：撮影範囲枠（パララックス自動補正）、フォーカスフレーム、測距表示、シャッタースピード、露出マーク、露出補正表示、ストロボマーク
表示パネル：撮影距離／フィルム感度、ドライブモード（1コマ撮影、連続撮影、セルフタイマー、多重露出）、カスタム機能表示、バッテリー警告マーク
フィルム装填：オートローディング式
フィルムカウンター"01"までの空送り機構付
フィルム巻上げ：内蔵モーターによる自動巻上げ
フィルム巻戻し：内蔵モーターによる自動巻戻し（オートリターン／オートストップ機構）途中巻戻し可能
ドライブモード：1コマ、連続、セルフタイマー、多重露出
撮影コマ速度：連続撮影("C"モード)で最高約2コマ／秒（新品電池使用、常温、当社撮影基準による）
フィルムカウンター：自動復元順算式、A·B·C表示
アクセサリーシュー：ダイレクトX接点（TLAストロボ連動接点付）

カスタム機能：⑴AEロックの方法の選択(メインスイッチでAEロックする／シャッターボタン半押しでAEロックする)
⑵A・B・C撮影順序の選択（適正→オーバー→アンダー／オーバー→適正→アンダー）
⑶フィルム巻戻し時のフィルム残りの選択(フィルムをすべて巻き込む／先端をパトローネの外に残す)
裏ぶた：裏ぶた開放ノブによる開放式、着脱可能、フィルム確認窓付
電源：3Vリチウム電池（CR2）2個使用
バッテリーチェック：自動チェック式　表示パネルに表示
フィルム撮影本数：24枚撮りフィルム約80本（新品電池使用、常温、当社撮影基準による）
寸法：133（幅）×77（高さ）×42（奥行き）mm
重量：460g（電池別）

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、**交換レンズ、およびアクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。**コンタックス用として市販されている他社製品を使用して生じた事故や故障については、当社では責任を負いかねます。


裏ぶた着脱ピン
スプール
ケーブルスイッチソケット
シャッター幕
ファインダー接眼部
視度調整つまみ
フィルム固定軸
シンクロターミナル
裏ぶた開放ノブ
フィルム室
フィルム確認窓
裏ぶた
バッテリー室／バッテリー室カバー
三脚ねじ穴
データバック用接点
DX接点
途中巻戻しボタン